

☆命ドウ宝か、國ドウ宝か？

今年五月三日、わが国は七六年目の憲法記念日を迎えました。五月は憲法月間です。日本の向かうべき方向と選択を平和憲法から考えて見ます。

(一) 沖縄でいま起こっていること

◆ウクライナ戦争を契機に、台湾有事、北朝鮮有事をことさらにあおり、日本はいま急速に軍事化に傾斜していつています。(5/9米タイム誌も現政府をそう評価)
◆そのことを実感させる出来事が沖縄で進んでいます。琉球弧と言われる島々における軍事施設建設と自衛隊の配備です。台湾に最も近い与那国島では公道を戦車が我が物顔で走っているとのこと。

◆この事態の言い訳として政府は「国と国民を守るため」と言いますが、本当にそうなのでしょいか？

(二) 前島の教訓

◆太平洋戦争で米軍が沖縄に迫ってきた時、国は慶良間諸島の小さな島・前島(島民270人くらい)に軍事施設を建設し軍隊を駐留させようとしてきました。

◆この時、国民学校校長の比嘉義清さんが、首を刎られるのを覚悟で「軍備と軍隊があると必ず島民に犠牲が出ます。どうか建設と駐留をやめて下さい」と隊長に必死に懇願しました。

◆この時の鈴木常良隊長も偉い人でした。「よし分かった！」と言って計画をやめたのです。こうしてこの島は非軍備の島となりました。上陸してきた米軍はこの島に軍備がないと知ると何もせず去りました。軍備のあった他の島は多くの死者を出したのにこの島はゼロでした。これは何を意味するのでしょうか？

(三) 命どう宝こそ

◆憲法九条の非武装非戦を訴える人に対する殺し文句は「敵がせめて来たらどうする。丸腰だったら皆殺しになるぞ」というものです。

◆この殺し文句に対する答えはこうです。確かに敵は攻めて来るでしょう。しかし、戦争はゲームではありません。軍備・軍隊のない所で敵対心のない丸腰の人たちに無駄な弾は使いません。これが前島の教訓です。

◆そして、最も大切にすべきは、國ドウ宝ではなく命ドウ宝の憲法九条の精神です。政府は、「国と国民を守る」と言いますが、本音は「國ドウ宝」の価値観で軍事化を進めているのではないのでしょうか。昔の漢字「國」の中には戈(二はこ)すなわち武器)があるという事がそのことを物語っています。

二〇二三年五月十四日(日) 護憲平和行進(通算675回目)
★浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五
★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合



日本国憲法 第二章 戦争の放棄と戦力及び交戦権の否認

第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。